研究科概要

名称	取得できる学位	入学定員
国際情報研究科 Graduate School of Global Informatics 国際情報専攻 Global Informatics Course	修士（国際情報） Master of Global Informatics	25名

学費 (2026年度入学生 参考金額)

初年度納入金額合計

1,111,000 円

入学金 240,000円　在学料 691,000円

実験実習料 35,000円　施設設備費 145,000円

入試情報

一般入学試験

対象
大学を卒業した者など
（卒業見込みを含む）

募集人員
5名

選考方法
筆答試験
【専門・英語(試験の代わりに英語能力証明書提出)】
口述試験

社会人特別入学試験

対象
3年以上の実務経験を有し、
大学を卒業した者など

募集人員
15名
（指定機関推薦入学試験含む）

選考方法
筆答試験【小論文】
口述試験

特別選考入学試験

対象
本学の学部卒業（見込み含む）者で、
一定の基準を満たしている者

募集人員
5名

選考方法
書類審査、口述試験

※「指定機関推薦入学試験」は書類審査と口述試験となります。

中央大学国際情報学部事務室

TEL. 03-3513-0314 〒162-8478 東京都新宿区市谷田町1-18

https://www.chuo-u.ac.jp/academics/graduateschool/itl/

お問い合わせフォーム https://www.chuo-u.ac.jp/inquiry/form/?id=151

中央大学市ヶ谷田町キャンパス

- 東京メトロ有楽町線・南北線「市ケ谷駅」（６番出口）下車　正面
- JR中央・総武線「市ケ谷」下車　徒歩５分
- 都営地下鉄新宿線「市ヶ谷駅」（A１出口）下車　徒歩５分



2027

大学院

国際情報研究科

Graduate School of Global Informatics

iTL

CHUO UNIVERSITY
GRADUATE SCHOOL OF
GLOBAL INFORMATICS

行動する知性。
中央大学

Information Technology & Law で 唯一無二の 学びを目指す

AI 、 IoT、ビッグデータに代表される技術革新が社会に大きな変化をもたらし、

その影響は瞬く間に世界中に波及するようになりました。

サイバー空間と現実世界とが密接に接合する「サイバー・フィジカルな社会」は、

人類に恩恵をもたらすとともに、新たな社会課題も生み出します。

そして今、こうした複雑な問題に対応できる人材が求められています。

情報システムが社会基盤となり、その高度な運用が求められる社会では、

情報技術の適正な運用と、それを制御するための**法制度の整備**が不可欠です。

しかし、まだ世界のどの国においても、

進展する情報技術に十分に対応した法体系が整備されているとは言えません。

そのような現状において、**情報学**と**法学**の統合こそが、

情報社会が抱える諸課題を解決に導くと考え、

中央大学は国際情報研究科を開設しました。



国際情報研究科のWEBサイトはこちら
随時、情報を更新してまいります。
https://www.chuo-u.ac.jp/academics/graduateschool/itl/

情報学と法学を統合し、社会のグランドデザインを主導する人材を養成

官民問わず、デジタル化の推進が強力に叫ばれる今、

AIを利用した自動運転・人事採用・コンテンツ制作などの倫理的課題

膨大な顧客データのグローバルスタンダードに準拠した管理

クラウドコンピューティングやオープンAPIによるイノベーションの創出等

従前の知識や考え方、単一分野の知識では解決しない課題が私たちに突きつけられています。
国際情報研究科では、情報及び情報に関する法律・規範に関する理論とサイバーフィジカル社会(CPS)における諸現象に精通し、複雑さを極める現代社会に内在する諸問題に対する新しい解決アプローチを、情報学と法学の知識をもとに創造できる人材、すなわち、「情報学と法学を統合し、社会のグランドデザインを主導する人材」を養成します。

教育・研究の特色

01 研究指導は複数分野の教員が担当
研究の学際性を担保します

02 キャンパスはアクセス抜群の**市ヶ谷**
オンライン授業も活用します

中心的な専門分野と学びのキーワード

研究分野	キーワード
AI・データサイエンス	行動情報分析／HCI（Human Computer Interface）／UX（User eXperience）／オープンソースソフトウェア／法学教育支援システム／法情報学／LegalTech／法律AI／法学教育支援システム／知識工学／テキストマイニング／ウェブマイニング／ウェブシステム／並列分散システム／IoT／AI
情報法	情報法／AI・ロボット法／自動運転車の法的責任／AIガバナンス／メタバースの法／プライバシー・個人情報保護／サイバー犯罪と捜査／比較法／ELSI／表現の自由／メディアと法／憲法／情報行政法／法情報学
社会デザイン・社会実装	ネットワークセキュリティ／サブカルチャー／DX／生産性／情報イノベーション／サイバーセキュリティ／コミュニケーション／メディア教育／社会的相互作用

入学する学生と修了生の進路イメージ

大学学部 → 入学 → 国際情報研究科 → キャリアアップ 就職 → 企業・官公庁
企業・官公庁 → 入学 → 国際情報研究科



学部教育において、
すでに「情報」と「法律」の素養を
身につけた学生

普段の業務において
「情報」もしくは「法律」に関する
課題を抱える社会人学生

カリキュラム Curriculum

2026年度 入学生用

在学生の声

WEBサイトにて公開中







		1年次	2年次	修士論文で修了 <30単位以上の修得>	特定課題研究論文で修了 <40単位以上の修得>
基盤科目		■国際情報研究の基礎 / ■情報法研究法 ■ELSI研究法 / ■情報基盤研究法		8単位 修得	8単位 修得
専門分野科目	AI・データサイエンス	HCI特論 / データマイニングとAI特論 / 並列・分散システム特論 / 法律人工知能特論	国際情報学実践研究（1）	10単位以上修得	16単位以上修得
	社会デザイン・社会実装	インターネットの技術と文化特論 / 情報セキュリティ特論 / デジタルジャーナリズム特論 / 情報イノベーション学特論 / 情報心理学特論 / 国際情報学実践研究（2）			
	情報法	情報公法特論 / 情報民事法特論 / AI・ロボット情報法特論 / 国際情報学実践研究（3） 情報刑事法特論 / プライバシー情報法特論 / ネットワーク情報法特論			
共通科目	グローバル・コミュニケーション	コミュニケーション特論（1） / 比較文明学特論 コミュニケーション特論（2） / 哲学特論		選択	選択
	大学院共通	リサーチ・リテラシー / AI・データサイエンス基礎Ⅰ AI・データサイエンス基礎Ⅱ / AI・データサイエンス応用			
研究指導科目		■国際情報学研究指導Ⅰ ■国際情報学研究指導Ⅱ	■国際情報学研究指導Ⅲ ■国際情報学研究指導Ⅳ	8単位 修得	8単位 修得
随意科目		◇特別指定科目Ⅰ（基礎情報学） ◇特別指定科目Ⅲ（情報ネットワーク論） ◇特別指定科目Ⅴ（情報セキュリティ論）	◇特別指定科目Ⅱ（インターネット概論） ◇特別指定科目Ⅳ（システム開発論）	修了要件外	修了要件外

■は必修科目　各科目群の上段が前期、下段が後期開講予定　　1科目2単位　　◇は1〜5限に開講　　科目名称等については変更の可能性があります。



専門共通科目を通じて情報学と法学の知識基盤を構築し、専門分野科目と「国際情報学研究指導Ⅰ・Ⅱ」により、自身の研究テーマを選択し、関連する専門知識を修得する。

専門分野科目を履修することで得られた高度な学際性と専門性を前提に「国際情報学研究指導Ⅲ・Ⅳ」において、研究テーマの選択方法、研究調査方法などを、指導教員を中心に隣接分野、他分野の教員による複数指導により修得。

修士論文の作成を通じて、情報学と法学の知的統合を達成。

修士論文を執筆して修了　30単位以上の修得 + 修士論文

特定課題研究論文の作成を通じて、情報学と法学の知的統合を達成。

特定課題研究論文を執筆して修了　40単位以上の修得 + 特定課題研究論文

授業は平日夜間と土曜日に開講!
オンライン授業システムも活用して働きながら修了可能。

授業時間　平日(月〜金) 6限 18:50〜　土曜日 1限 9:00〜

オンライン授業もフレキシブルに活用。
土曜日の研究指導は市ヶ谷田町キャンパスでの対面指導を予定。

教員紹介 Teacher introduction

研究指導・授業担当教員（AI・データサイエンス）

飯尾 淳
教授



研究指導のテーマ
人間と情報システムのインタラクション
主な担当科目
HCI特論

角田 篤泰
教授



研究指導のテーマ
法情報学・リーガルテック / 人工知能
主な担当科目
法律人工知能特論

小花 聖輝
教授



研究指導のテーマ
Webアプリケーション / 並列・分散システム
主な担当科目
並列・分散システム特論

吉田 雅裕
准教授



研究指導のテーマ
IoT / AI / データサイエンス
主な担当科目
データマイニングとAI特論

研究指導後に得られる能力

飯尾　淳	●システムやサービスの使い勝手に関する良し悪しを評価・分析できるようになる。 ●インターネット上のユーザーや社会における人間の行動を分析できるようになる。
角田　篤泰	●LegalTechの技術基盤、背景、および課題について理解できるようになる。 ●システム科学に基づくシステム開発の上流工程の設計ができるようになる。 ●DXやAI化に関わるルールベースドなナレッジ管理の基本技術を応用できるようになる。
小花　聖輝	●様々な技術分野をウェブアプリケーションに応用できるようになる。 ●文書分類の手法を用いて様々なものを分類できるようになる。 ●ウェブアプリケーションのバックエンドで様々な手法を検討できるようになる。
吉田　雅裕	●統計やAIを用いた実践的なデータサイエンスを行うことができるようになる。 ●自動運転車の仕組みを理解しプログラミングすることができるようになる。 ●5GやIoTなどの技術を理解しプログラミングできるようになる。 ●Webサイトの仕組みを理解しプログラミングできるようになる。

研究指導・授業担当教員（社会デザイン・社会実装）

岡嶋 裕史
教授



研究指導のテーマ
TCP / IP系プロトコル
主な担当科目
インターネットの技術と文化特論

篠崎 彰彦
教授



研究指導のテーマ
情報技術革新の経済効果 /
デジタル化と産業・企業の変貌
主な担当科目
情報イノベーション学特論

松崎 和賢
教授



研究指導のテーマ
サイバーセキュリティ
主な担当科目
情報セキュリティ特論

村田 雅之
教授



研究指導のテーマ
情報心理学 / 情報社会学
主な担当科目
情報心理学特論

研究指導後に得られる能力

岡嶋　裕史	●ある情報システムの実装においてどのようなアーキテクチャを採用するべきか、流行や言説に惑わされずに論理的に最適解を導くことができる。 ●Web3やメタバースのような新規概念、新規実装が現れたときに、どこをマネタイズのポイントとするのか適切に判断することができる。
篠崎　彰彦	●情報技術の進歩と普及が企業・産業・経済に及ぼす影響を経済学の基本概念と分析手法を用いて深く理解できるようになる。 ●新技術を取り入れて新たな事業を展開する企業とそのエコシステム（産業）について、多面的に評価・分析できるようになる。
松崎　和賢	●サイバーセキュリティのリスク分析について国際標準等に照らして理解できるようになる。 ●サイバーフィジカルシステムにおけるセキュリティ検証や対策について実践しながら理解できるようになる。
村田　雅之	●「情報」「心理」「メディア」「デザイン」などの学際的な視点から、社会事象を「串刺し」的に読み解けるようになる。 ●調査の企画、実施、データ収集、分析、報告の一連のプロセスをとおして、「データで語る」ことができるようになる。

研究指導・授業担当教員（情報法）

石井 夏生利
教授



研究指導のテーマ
プライバシー / 個人情報保護法
主な担当科目
プライバシー情報法特論

岩隈 道洋
教授



研究指導のテーマ
公法／メディア法／法情報学
主な担当科目
情報公法特論

小向 太郎
教授



研究指導のテーマ
情報法 / 情報通信法
主な担当科目
ネットワーク情報法特論

中島 美香
教授



研究指導のテーマ
民事法 / 情報法（競争政策） /
デジタルプラットフォーム規制
主な担当科目
情報民事法特論

中村 真利子
准教授



研究指導のテーマ
刑事法 / サイバー犯罪と捜査・公判 /
刑事手続のIT化
主な担当科目
情報刑事法特論

平野 晋
教授



研究指導のテーマ
AI・ロボット法 / 製造物責任法
主な担当科目
AI・ロボット情報法特論



研究指導後に得られる能力

石井　夏生利	●日米欧の制度比較を通じて、日本の個人情報保護法制が抱える課題を大局的に理解できるようになる。 ●データの取り扱いをめぐる新たな問題について、プライバシー・個人情報保護の観点から法的にアプローチできるようになる。
岩隈　道洋	●表現の自由を起点に、Web・SNS・生成AI等を含む新旧メディアの問題に対する法解釈や政策論を展開できる。 ●公法系の諸理論を踏まえ、個別の情報行政法（個情法・放送法・電気通信事業法等）を解釈し、立案できる。 ●法源論とデータベース論等を融合し、法情報提供システムの構造と機能を理解し、その設計や研究への活用ができる。
小向　太郎	●情報技術を活用した新たなサービスやビジネスについて、どのような法制度的問題を起こす可能性があるのか、情報法全般に関する基礎的な知識を踏まえて多面的に評価できるようになる。 ●デジタル化、ネットワーク利用の進展によって生じる社会の諸問題について、主要国の制度がどのように対応しようとしているのか、それぞれの特徴と課題を理解できるようになる。
中島　美香	●デジタルプラットフォームの法律問題について、民事法ないし情報法（競争政策）の観点から判例・学説に基づく解釈論を展開できるようになる。 ●デジタルプラットフォーム規制に関する日米欧の法制度を比較して、日本としての法政策のあり方を考えることができるようになる。
中村　真利子	●犯罪と刑罰、刑事手続に関する日米の比較法研究を通じて、デジタル化・グローバル化した現代社会における刑事法の課題を見出すことができる。 ●サイバー空間における犯罪への国内外の対応を理解し、サイバー犯罪の刑事規制と捜査・公判のあり方を考えることができる。
平野　晋	●日本の『AI法』（人工知能関連技術の研究開発及び活用の推進に関する法律）を理解できるようになる。 ●日米の法律、学説、裁判例等を参考にしながら、誤作動した自動運転車が製造物責任を負うか否かを理解できるようになる。 ●AIを搭載した製造物が設計上の欠陥であると認定される際の基準を、日米の法理論から理解できるようになる。

授業担当教員

グローバル・コミュニケーション

斎藤 裕紀恵
教授



主な担当科目
コミュニケーション特論(2)

グローバル・コミュニケーション

橋本 健広
教授



主な担当科目
コミュニケーション特論(1)

グローバル・コミュニケーション

矢島 壮平
准教授



主な担当科目
哲学特論

